

# CONTENTS

<b>1. はじめに</b>	<b>04</b>
事業の趣旨及び概要	04
<b>2. 事業の目的と枠組</b>	<b>05</b>
3年間の事業プロセス	05
<b>3. 事業の展開</b>	<b>06</b>
1年目:現状把握 温暖化を意識した行動変容のための効果的な対象の選定	06
2年目:展開基盤づくり	
(1)連携先の開拓、連携団体紹介、本事業に参加した効果等	08
日本家庭園芸普及協会	09
NPO日本食育インストラクター協会	09
(2)教材開発 「どこでもフリップ」	10
(3)モデル研修会	12
3年目:全国展開へ	13
(1)リーダー養成	
グリーンアドバイザーと食育インストラクター対象の研修会と各地における展開	14
リーダー研修会参加者による全国各地でのプログラム実践	16
(2)新たな連携先の開拓— 家庭科教育を中心とした学校現場へのアプローチ	
(その1)京都市における実践	19
(その2)全国の家家庭科教諭との接点の模索	21
(3)地域温暖化防止活動推進センターとのマッチング	21
(4)新たな開発教材	21
<b>4. プログラム実践報告</b>	<b>22</b>
専門家の実践	22
体験から学ぶこと、異分野コラボの重要性	24
<b>5. 全国各地で展開している実践報告</b>	<b>26</b>
<b>6. まとめ</b>	<b>36</b>
他分野へのアプローチから見てきたこと	36
本事業の総括	38
<b>〈資料編〉</b>	<b>40</b>
資料1 事業関係者	40
資料2 事業実施経過・体制	41
資料3 事業関連の学術論文	42
資料4 情報インデックス	50

## はじめに

「セミナー参加者の顔ぶれはいつも同じ」「環境イベントはなかなか人が集まらない」「本当に省エネを意識してほしい若者はここには来ない」などの嘆きとも諦めともとれる現場の声があります。そこから、このプロジェクトは生まれました。

COP21でのパリ協定採択を受け、日本政府も家庭や個人の省エネ対策を一層重視する方針を示していますが、通常、家庭部門における地球温暖化対策に関する啓発活動は、広く一般市民に向けて推進しておりますが、普及啓発活動はともすると、温暖化問題や環境に関心のある方々を超えて、その外側にいる人々のアンテナには届きにくい現実があります。

私たちが行動変容を期待したいのは、「まだ取り組んでいない人」「意識の薄い／乏しい人」ですが、地球温暖化に関心のない人々のライフスタイルや意識を変えるのは容易ではありません。情報を届ける入口を見つけることさえも難しいのが現状です。

そこで、本プロジェクトでは、「地球温暖化分野以外の活動に関心のある方々」に視点を移し、アプローチを試みることにしました。目指したのは、自身の関心分野と地球温暖化との関係や接点を理解していただくことによって、温暖化問題を身近に捉えていただき、結果として、日常生活の中での行動変容を促すというアプローチです。

人々の関心分野は、衣食住、スポーツや音楽など多岐に亘りますが、より効果的かつ効率的に啓発活動を行うために、ここでは、地球温暖化対策に関した行動変容が期待できる関心分野を定め、その分野に特化した行動変容プログラムを作成し、さらに各分野のリーダーを通して啓発プログラムをより多くの人々に展開していくという3年間のスキームを組み立てました。

3か年の事業を終えた今、私たちは、これまで縁のなかった多様な組織や個人の方々とつながりを持ち、さらに深め、地球温暖化対策の啓発に有効な教材作成の新たな視点や視角を得ることができました。

この3年間、学術・研究面から事業をけん引された東京都市大学佐藤真久教授をはじめ、事業展開にご理解・ご協力をいただきました大変多くの個人・団体の皆様と各分野の専門家の方々に、心より感謝申し上げます。特に、2年目から連携団体としてご参加いただき、この事業のために多くの時間と労力をご提供してくださった日本家庭園芸普及協会とNPO日本食育インストラクター協会の皆様には、言葉に尽くせぬほどお世話になりました。本当にありがとうございました。

私たち地球温暖化対策に従事する者も、様々な分野の取組に関心を向け、つながりを持ち、啓発活動の幅を広げていきたいと思えます。

平成28年3月  
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット  
理事長 長谷川 公一

## 3年間の事業プロセス

本事業は、家庭部門の地球温暖化対策の啓発活動において、その対象者を「広く一般」ではなく、「特定の関心分野に集まる人々」、当該分野の特性に応じた教材やプログラムを開発・運用することにより、これまで地球温暖化に関心のなかった人々を、温暖化対策に適う行動変容へと誘うことを目的とした。

具体的には、下記の図に示すように、1年目に温暖化対策の啓発に効果的と思われる関心分野の調査・検討、2年目に調査結果に基づいた特定分野の連携パートナー開拓とモデルプログラム作成・実施、そして3年目の最終年に、各分野のリーダーを通して当該プログラムをより多くの人々へ展開していくというプロセスを進めた。

成果として、1年目は、学術的に裏付けされた調査の結果、事業対象とする分野を「ガーデニング」「飲食」に絞

ることができた。2年目には、ガーデニング分野で日本家庭園芸普及協会、食分野でNPO日本食育インストラクター協会の2つの団体にパートナーとしての事業参画をご快諾いただき、全面的な協力を得ることができた。さらに、ガーデニングや食の専門家、そして地域で温暖化防止に関わる地域温暖化防止活動推進センターのスタッフや研修事業のスペシャリストなど多様な方々に参画いただいたことにより、2年目、3年目の人材育成事業や全国展開へと複合的な動きが可能となった。

